平成29年改訂学習指導要領の趣旨を踏まえた学習評価の進め方

中学校 音楽科

この資料は、平成29年改訂学習指導要領(以下、学習指導要領)に基づく学習評価を円滑に進めていくための手引きとして、国立教育政策研究所の「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料」(以下、「参考資料」)の考え方を基に、佐賀県教育センターが作成したものです。各学校における、指導と評価の一体化に向けた取組の推進にぜひお役立てください。

目次

1	学習評価の基本的な考え方・・・・・・・・・・・・・・・・・1
2	学習評価の観点・・・・・・・・・・・・・・・・1
3	学習評価の進め方・・・・・・・・・・・2
4	中学校音楽科の目標3
5	評価の観点及びその趣旨・・・・・・・・・・・・・・・・3
6	「内容のまとまり」及び「内容のまとまりごとの評価規準」・・・・・・・・・4
7	題材の評価規準の作成・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・5
8	観点ごとの評価と評価する際の留意点・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・10
9	中学校音楽科における評価の事例・・・・・・・・・・・・・16
10	学習評価の進め方Q&A·······27



1 学習評価の基本的な考え方

○学習評価とは

児童生徒の資質・能力を育成するために、目標に照らして児童生徒一人一人の学習状況を的確に把握すること

○学習評価を行う上で重要なポイント

- ① 児童生徒の学習改善につながるものにしていくこと
- ② 教師の指導改善につながるものにしていくこと
- ③ これまで慣行として行われてきたことでも、必要性・妥当性が認められないものは見直していくこと

学習評価を行うに当たっては、児童生徒一人一人の資質・能力を育成できるようにすることが大前提です。そのためには、児童生徒の進歩の状況や教科等の目標の実現状況を適切に把握することが必要です。把握した内容は、児童生徒にフィードバックして児童生徒の学習改善につなげられるようにし、教師は自身の指導改善につなげます。このことなくして児童生徒一人一人の資質・能力の育成は望めません。つまり、学習評価を行う上で、「普段の授業の不断の見直し」が不可欠だと言えます。

○学習評価の機能

指導に生かす評価・・・児童生徒一人一人の学習状況を把握し、児童生徒の学習改善や教師の指導 改善につなげるための評価のこと

指導に生かす評価の場面は、随時存在します。児童生徒の学習状況を把握し、「おおむね満足できる」状況(B)以上になることを目指して、必要な指導を適宜行います。

記録に残す評価・・・・観点別学習状況の評価を総括する際の資料となるよう、学習状況を記録する 評価のこと

記録に残す評価の場面は、毎時間設定する必要はありません。児童生徒全員の評価を記録に残す場面を精選することが重要です。単元や題材のまとまりの中で、評価規準に照らして、児童生徒の観点別学習状況を把握し、記録します。

2 学習評価の観点

学習指導要領では、各教科等の目標や内容が、育成を目指す資質・能力の三つの柱を基に整理されました。目標や内容の整理を踏まえ、小・中・高等学校の各教科を通じて、評価の観点も4観点から3観点に整理されました(下図参照)。



3 学習評価の進め方

本資料での説明

①「中学校音楽科の目標」等の確認

・学習指導要領や学習指導要領解説で、教科の目標や内容を確認し、授業で育成 を目指す資質・能力を明確化します。

P 3

②「評価の観点及びその趣旨」等の確認

・「評価の観点及びその趣旨」と「学年別の評価の観点の趣旨」を確認します。

 $P3\sim P4$

③「内容のまとまり」及び「内容のまとまりごとの評価規準」の確認

・「内容のまとまり」や(共通事項)の位置付け、「内容のまとまりごとの評価規 準」を確認します。

 $P4\sim P5$

④「年間の指導と評価の計画」の確認

・計画した「年間の指導と評価の計画」を確認します。

⑤ 「題材の目標」の設定

- ・①~④を踏まえ、生徒の実態、前題材までの学習状況等を踏まえて設定します。
- ・学習指導要領「2 内容」を基に「題材の目標」を設定することができます。

⑥ 「題材の評価規準の作成」

•「題材の評価の基本構造」と「評価規準の作成のポイント」を参考にして、題材 の評価規準を作成します。

 $P5\sim P10$

⑦「評価の計画の作成」(本資料「観点ごとの評価と評価する際の留意点」を参照)

・評価する場面、評価方法を計画します。

•「おおむね満足できる」状況(B)と判断する基準や「努力を要する」状況(C)となりそうな生徒への手立て等について考えます。

 $P10 \sim P15$

⑧授業・評価(本資料「中学校音楽科における評価の事例」を参照)

• 授業を行い、観点別学習状況の評価を行います。

・生徒の学習の実現状況を見取り、評価結果を生徒の学習の改善や、教師の指導 の改善に生かすようにします。 $P16 \sim P24$

⑨観点別学習状況の評価の総括

・題材における観点ごとの総括や学期や年間を見通した観点ごとの総括を行います。

 $P25 \sim P26$

観点別学習状況の評価の評定への総括

・観点別学習状況の評価の評定への総括は、各観点の評価結果をA、B、Cの組合 せ、又は、A、B、Cを数値で表したものに基づいて行います。

P 27

4 中学校音楽科の目標

学習指導要領において、全ての教科の目標は、(1)「知識及び技能」、(2)「思考力、判断力、表現力等」、(3)「学びに向かう力、人間性等」の三つの柱で整理されました。中学校音楽科の目標は次のとおりです。

表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活 や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成 することを目指す。

- (1) 曲想と音楽の構造や背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解 するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身 に付けるようにする。
- (2) 音楽表現を創意工夫することや、音楽のよさや美しさを味わって聴くことができるようにする。
- (3) 音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽を愛好する心情を育むとともに、音楽に対する感性を豊かにし、音楽に親しんでいく態度を養い、豊かな情操を培う。

知識及び技能

思考力、判断力、 表現力等

学びに向かう力、 人間性等 ※

各学年の目標及び内容については、学習指導要領でご確認ください。

※(3)の「学びに向かう力、人間性等」には、①「主体的に学習に取り組む態度」として観点別学習状況の評価を通じて見取ることができる部分と、②観点別学習状況の評価や評定にはなじまず、こうした評価では示しきれないので個人内評価を通じて見取る部分があるとされています。そのため、評価の観点は、「主体的に学習に取り組む態度」と示されています。

5 評価の観点及びその趣旨



「評価の観点及びその趣旨」と 「学年別の評価の観点の趣旨」を確認しましょう。

(1) 評価の観点及びその趣旨

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	・曲想と音楽の構造や背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解している。 ・創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付け、歌唱、器楽、創作で表している。	音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように表すかについて思いや意図をもったり、音楽を評価しながらよさや美しさを味わって聴いたりしている。	音や音楽、音楽文化に親しむ ことができるよう、音楽活動 を楽しみながら主体的・協働 的に表現及び鑑賞の学習活動 に取り組もうとしている。

(2) 学年別の評価の観点の趣旨

ゴシック体の部分は、学年で異なる部分です。

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	・曲想と音楽の構造など	音楽を形づくっている要素や要素同	音や音楽,音楽文化に親しむ
	との関わり及び音楽の	士の関連を知覚し、それらの働きが	ことができるよう, 音楽活動
	多様性について理解し	生み出す特質や雰囲気を感受しなが	を楽しみながら主体的・協働
第	ている。	ら,知覚したことと感受したことと	的に表現及び鑑賞の学習活
学	・創意工夫を生かした音	の関わりについて考え、どのように	動に取り組もうとしている。
学年	楽表現をするために必	表すかについて思いや意図をもった	
	要な技能を身に付け,歌	り,音楽を 自分なりに 評価しながら	
	唱,器楽,創作で表して	よさや美しさを味わって聴いたりし	
	いる。	ている。	
	・曲想と音楽の構造 や背	音楽を形づくっている要素や要素同	音や音楽,音楽文化に親しむ
第	景 などとの関わり及び	士の関連を知覚し、それらの働きが	ことができるよう, 音楽活動
学	音楽の多様性について	生み出す特質や雰囲気を感受しなが	を楽しみながら主体的・協働
年	理解している。	ら,知覚したことと感受したことと	的に表現及び鑑賞の学習活
及び	・創意工夫を生かした音	の関わりについて考え, 曲にふさわ	動に取り組もうとしている。
2学年及び第3学年	楽表現をするために必	しい音楽表現として どのように表す	
学	要な技能を身に付け,歌	かについて思いや意図をもったり、	
年	唱,器楽,創作で表して	音楽を評価しながらよさや美しさを	
	いる。	味わって聴いたりしている。	

6 「内容のまとまり」及び「内容のまとまりごとの評価規準」

(1) 中学校音楽科における「内容のまとまり」

「内容のまとまり」とは、学習指導要領に示されている「2 内容」の項目等をそのまとまりごとに 細分化したり整理したりしたものです。

中学校音楽科における「内容のまとまり」は、次のとおりです。

「A表現」(1)歌唱 及び (共通事項)(1)

「A表現」(2)器楽 及び (共通事項)(1)

「A表現」(3)創作 及び (共通事項)(1)

「B鑑賞」(1)鑑賞 及び (共通事項)(1)



(共通事項) (1) ア・イについては、従前同様、表現及び鑑賞の活動と切り離して単独で指導するものではありません。

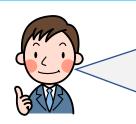
(共通事項)(1)アについては、全ての題材で必ず位置付けなければ学習として成立しないため、「思考・判断・表現」の観点の中に位置付けられています。

(共通事項)(1)イについては、「音楽における働きと関わらせて理解すること」と示されており、単に用語や記号などを理解するだけではなく、主に「曲想と音楽の構造との関わり」について理解する過程や結果において理解することができるように指導していきます。

(2) 中学校音楽科における「内容のまとまりごとの評価規準」

「内容のまとまりごとの評価規準」とは、この資料では学習指導要領の「2 内容」の事項を「~すること」から「~している」に語尾を変えたものを呼ぶこととしています。この「内容のまとまりごとの評価規準」の考え方等を踏まえて、題材の評価規準を作成します(「参考資料」pp. 85-90 参照)。

7 題材の評価規準の作成



題材の評価規準は、学習指導要領の「第2 各学年の目標及び内容」の「2 内容」を基にして作成することができます。通常、1つの題材において3観点それぞれに評価規準を1つ以上設定します。

学習指導要領の「2 内容」

事項ア…「思考力、判断力、表現力等」に関する事項

事項イ…「知識」に関する事項

事項ウ…「技能」に関する事項



下の表には、**題材の評価規準の基本構造**1・2と**評価規準の設定例**1・2を示しています。

表中のゴシック体の []内は、題材で扱う学習指導要領の事項ア、イ、ウや音楽を形づくっている要素、文言を挿入する部分です。

評価規準の基本構造
 1 第1学年「A表現(歌唱)」

∕τΩ≣άΝ	・[事項イの(ア)又は(イ)のいずれか又は両方]について理解している。【知識】
知識 • 技能	・[事項ウの(7)又は(4)のいずれか又は両方]を身に付け、歌唱(*器楽分野の場合は「器楽」、
	創作分野の場合は「創作」)で表している。【技能】
	[音色,リズム,速度,旋律,テクスチュア,強弱,形式,構成などのうち,その題材の学
思考・	習において生徒の思考・判断のよりどころとなるものとして適切に選択した主な音楽を形づ
判断•	くっている要素]を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受しながら、知覚し
表現	たことと感受したこととの関わりについて考え、どのように <u>歌うか</u> (*器楽分野の場合は「演
	奏するか」,創作分野の場合は「音楽をつくるか」)について思いや意図をもっている。
主体的に	[その題材の学習に粘り強く取り組んだり, 自らの学習を調整しようとする意思をもったり
学習に	できるようにするために必要な,扱う教材曲や曲種等の特徴,学習内容など,生徒に興味・
取り組む	関心をもたせたい事柄]に関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に <u>歌唱</u> (*
態度	器楽分野の場合は「器楽」、創作分野の場合は「創作」)の学習活動に取り組もうとしている。
-	



評価規準の設定例1 第1学年「A表現(歌唱)」事項ア、イ(ア)、ウ(イ)で題材を構想している場合

知識・技能

知 曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて理解している。

技 創意工夫を生かし、全体の響きや各声部の声など(*1)を聴きながら他者と合わせて 歌う技能を身に付け、歌唱で表している。

思考・ 判断・ 表現	图 音色,速度,旋律 (*2)を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように歌うかについて思いや意図をもっている。
主体的に 学習に 取り組む 態度	態 旋律と言葉との関係に関心をもち, (*3)音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組もうとしている。

*1:本題材の学習で扱わない部分については、削除することができます。

*2:「音楽を形づくっている要素(音色、リズム、速度、旋律、テクスチュア、強弱、形式、構成など)」の中から、その題材の学習において生徒の思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素を適切に選択して記載します。

*3: 文頭に、その題材の学習に粘り強く取り組んだり、自らの学習を調整しようとする意思をもったりできるようにするために必要な、扱う教材曲や曲種等の特徴、学習内容など、生徒に興味・関心をもたせたい事柄を記載します。

評価規準の基本構造 2 第2学年及び第3学年「B鑑賞」

知識 • 技能	・[事項イの(7), (イ), (ウ)のうち1つ以上] について理解している。【知識】 ・「B鑑賞」では、「技能」に関する評価規準は設定しない。
思考 • 判断 • 表現	[音色, リズム, 速度, 旋律, テクスチュア, 強弱, 形式, 構成などのうち, その題材の学習において生徒の思考・判断のよりどころとなるものとして適切に選択した主な音楽を形づくっている要素]を知覚し, それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受しながら, 知覚したことと感受したこととの関わりについて考えるとともに, [事項アの(ア), (イ), (ウ)のうち1つ以上]について考え, よさや美しさを味わって聴いている。
主体的に 学習に 取り組む 態度	[その題材の学習に粘り強く取り組んだり, 自らの学習を調整しようとする意思をもったりできるようにするために必要な, 扱う教材曲や曲種等の特徴, 学習内容など, 生徒に興味・関心をもたせたい事柄] に関心をもち, 音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。



評価規準の設定例 2 第2学年及び第3学年「B鑑賞」事項ア(ア)、イ(イ)で題材を構想している場合

知識 • 技能	知 音楽の特徴とその背景となる文化や歴史 、他の芸術 (*1)との関わりについて理解している。
思考 • 判断 • 表現	歴 旋律、テクスチュア、強弱(*2)を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えるとともに、曲や演奏に対する評価とその根拠について考え、よさや美しさを味わって聴いている。
主体的に 学習に 取り組む 態度	態 音楽の雰囲気の移り変わりに関心をもち , (*3)音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。

*1、*2、*3については、(評価規準の設定例1) と同様です。

「評価規準作成のポイント」

	「悪悪地族におるよう」
翻 只	
観点	「評価規準作成のポイント」 「知識」「技能」に共通する評価規準作成のポイント ・原則として、「知識」と「技能」とに分けて設定します。 ・(ア)、(イ)などのように複数の事項を示しているものについては、題材の目標に照らして、1つ以上を選択して設定します。複数の事項を選択し、それらの評価場面や評価方法が同じである場合は、「及び」や「とともに」などでつなぎ、一文で表記することもできます。 ・事項に示している内容のうち、本題材の学習で扱わない部分については、削除することができます。 「知識」の評価規準作成のポイント ・事項イの(ア)、(イ)、(ウ)から1つ以上を適切に選択して、文末を「~について理解している」に変更します。 ・「A表現」(器楽)の事項イ(イ)では、文頭に実際の楽器名を挿入することもできます。 ・文頭に教材名(曲名)を挿入することもできます。 「知識」の評価規準の設定例 ・第2学年及び第3学年 「A表現」(1)歌唱 事項イ(ア)
知識 • 技能	 知 曲想と音楽の構造や歌詞の内容及び曲の背景との関わりについて理解している。 ・第2学年及び第3学年 「A表現」(2)器楽 事項イ(1) 知 楽器(三味線)の音色や響きと奏法との関わりについて理解している。 ・第1学年 「A表現」(3)創作 事項イ(ア) 知 音のつながり方の特徴について、表したいイメージと関わらせて理解している。 ・第2学年及び第3学年 「B鑑賞」(1)鑑賞 事項イ(ウ) 知 「オルティンドー(モンゴル)」、「江差追分(日本民謡)」の音楽の特徴と、その特徴から生まれる音楽の多様性について理解している。
	○「技能」の評価規準作成のポイント ・事項ウの(7)、(イ)のいずれか又は両方を適切に選択して置き換えます(創作は1つのみ)。 ・文中に教材名(曲名)を挿入することもできます。 ・「B鑑賞」の題材においては、「技能」の評価規準を設定しません。 「技能」の評価規準の設定例 ・第2学年及び第3学年 「A表現」(1)歌唱 事項ウ(ア) 「技 創意工夫を生かした表現で(「早春賦」を)歌うために必要な発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能を身に付け、歌唱で表している。 ・第2学年及び第3学年 「A表現」(2)器楽 事項ウ(イ) 「技 創意工夫を生かし、全体の響きや各声部の音などを聴きながら他者と合わせて演奏する技能を身に付け、器楽で表している。 ・第1学年 「A表現」(3)創作 事項ウ 「技 創意工夫を生かした表現で音楽をつくるために必要な、課題や条件に沿った音の選択や組合せなどの技能を身に付け、創作で表している。

〇「思考・判断・表現」の評価規準作成のポイント

- ・評価規準の前半部分には、〔共通事項〕アを位置付けます。
- ・A表現の領域(歌唱・器楽・創作)では、〔共通事項〕アの文末を「考え、」に変更し、文 頭に置き、事項アの文末を「~している」に変更します。
- ・B鑑賞の領域では、〔共通事項〕アの文末を「考えるとともに、」に変更して文頭に置き、 事項アの(P)、(d)、(d) から1つ以上を適切に選択して置き換え、文末を「 \sim 聴いている」 に変更します。また、第1学年の場合は、「自分なりに考え」と挿入します。
- ・題材によっては、

 | 型① (〔共通事項〕アに関すること)、

 | 型② (〔共通事項〕アを支えとして、音楽表現を創意工夫したり味わって聴いたりすること)などのように、2つの評価規準を設定することもできます。(題材の中で評価場面や評価方法が異なる場合)
- ・事項アの前半の「~に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら」は、「知識及び技能」と「思考力、判断力、表現力等」とがどのような関係にあるかを明確にするために示している文言であるので、評価規準には含めません。
- ・文頭や文中に、教材名(曲名)を挿入することもできます。
- ・〔共通事項〕アは、「思考力、判断力、表現力等」に関する内容を示しており、〔共通事項〕 アと各領域(A表現、B鑑賞)や分野(歌唱、器楽、創作)の事項アは、一体的に捉える べき内容です。
- ・「第2学年及び第3学年」の「A表現(歌唱、器楽、創作)」の「思考・判断・表現」の評価規準を作成する際は、第1学年と事項アの文言が異なるため、下記の<u>波線部</u>のように設定します。

思考· 判断· 表現

第2学年及び第3学年 A表現(歌唱、器楽)

思 音楽を形づくっている要素を知覚し、 それらの働きが生み出す特質や雰囲気 を感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、曲にふさわしい歌唱(器楽)表現としてどのように表すかについて思いや意図をもっている。

第2学年及び第3学年 A表現(創作)

思 音楽を形づくっている要素を知覚し、 それらの働きが生み出す特質や雰囲気 を感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、まとまりのある創作表現としてどのように表すかについて思いや意図をもっている。

・「B鑑賞」の「思考・判断・表現」の評価規準を作成する際は、「第1学年」と「第2学年 及び第3学年」とでは、事項アの文言が異なるため、下記の波線部のように設定します。

第1学年 (事項ア(ア)の場合で例示)

第2学年及び第3学年(事項ア(ア)の場合で例示)

画 音楽を形づくっている要素を知覚し、 それらの働きが生み出す特質や雰囲気 を感受しながら、知覚したことと感受し たこととの関わりについて考えるとと もに、曲や演奏に対する評価とその根拠 について自分なりに考え、音楽のよさや 美しさを味わって聴いている。

圏 音楽を形づくっている要素を知覚し、 それらの働きが生み出す特質や雰囲気を 感受しながら、知覚したことと感受した こととの関わりについて考えるととも に、曲や演奏に対する評価とその根拠に ついて考え、音楽のよさや美しさを味わって聴いている。

「思考・判断・表現」の評価規準の設定例

・第2学年及び第3学年 「A表現」(1)歌唱 事項ア

図 リズム、速度、旋律、強弱を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、曲にふさわしい歌唱表現としてどのように表すかについて思いや意図をもっている。

<u>下線部</u>は、この題材の学習において、生徒の思考・判断のよりどころとなる主な音楽を 形づくっている要素として「リズム」、「速度」、「旋律」、「強弱」を設定している場合。

・第2学年及び第3学年 「A表現」(2)器楽 事項ア

国 三味線の<u>音色</u>や長唄の<u>旋律、リズム</u>を知覚し、それらの働きが生み出す特質 や雰囲気を感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考 え、曲にふさわしい器楽表現としてどのように演奏するかについて思いや意図 をもっている。

<u>下線部</u>は、この題材の学習において、生徒の思考・判断のよりどころとなる主な音楽を 形づくっている要素として「音色」、「旋律」、「リズム」を設定している場合。

○「主体的に学習に取り組む態度」の評価規準作成のポイント

- ・当該学年の「評価の観点の趣旨」に基づいて作成します(本資料 p. 4 参照)。
- ・「評価の観点の趣旨」の文頭部分「音や音楽、音楽文化に親しむことができるよう」は、「主体的に学習に取り組む態度」における音楽科の学習の目指す方向性を示している文言であるため、評価規準には含めません。また、「学習活動」とは、その題材における「知識及び技能」の習得や「思考力、判断力、表現力等」の育成に係る学習活動全体を指しています。
- ・「評価の観点の趣旨」の「表現及び鑑賞」の部分は、扱う領域や分野に応じて「歌唱」「器 楽」「創作」「鑑賞」より選択して置き換えます。
- ・文頭に、「〇〇に関心をもち」を加え、その題材の学習において生徒に興味・関心をもたせたい事柄を記載します。その際、「〇〇に関心をもち」の「〇〇」は、「その題材の学習に粘り強く取り組んだり、自らの学習を調整しようとする意思をもったりできるようにするために必要な、扱う教材曲や曲種等の特徴、学習内容など、生徒に興味・関心をもたせたい事柄」となるよう、十分に吟味して設定します。なお、「関心をもち」は、主体的・協働的に学習活動に取り組めるようにするために必要なものであり、「関心をもっているか」のみを評価するものではありません。
- ・文頭に教材名(曲名)を挿入することもできます。
- ・観点の趣旨に示されている「楽しみながら」は、「主体的・協働的に」に係る文言であり、 「楽しみながら取り組んでいるか」を評価するものではありません。あくまでも、主体的・ 協働的に取り組む際に「楽しみながら」取り組めるように指導を工夫する必要があること を示唆しているものです。

主体的に 学習に 取り組む 態度

「主体的に学習に取り組む態度」の評価規準の設定例

- 第2学年及び第3学年 「A表現」(1)歌唱
 - (「荒城の月」の)歌詞が表す情景や心情及び曲の表情や味わいに関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組もうとしている。
- 第2学年及び第3学年 「A表現」(2)器楽
 - 題 三味線の構造や奏法による音色の違いに関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に器楽の学習活動に取り組もうとしている。

8 観点ごとの評価と評価する際の留意点 重要り



- ○学習評価については、日々の授業の中で生徒の学習状況を適宜、把握しながら、生徒の学習改善や教師の指導改善に生かすことが大切です。
- ○授業中では、適宜「指導に生かす評価」を行い、特に「努力を要する」状況(C)と判断され そうな生徒の存在を取り急ぎ把握して、適切な指導や助言を行い、「記録に残す評価」を行う場 面では、限りなく全員の生徒を少なくとも「おおむね満足できる」状況(B)以上であると評 価できるようにすることが大切です。
- ○「記録に残す評価」を行う場面での評価規準は、1単位時間に平均0~2つ程度を設定し、無理なく計画的に行うことが大切です。
- ○観点ごとの学習状況についての評価は、題材における内容や時間のまとまりを見通しながら、 それぞれの実現状況を把握できる段階で行うなどして評価場面を精選し、適時・適切な場面で 評価を行うことが大切です。
- ○生徒の発言や反応、ワークシートの記述内容の分析、行動の観察、演奏の聴取など、**多**様な評価方法を工夫することが必要であり、テストの結果に偏ることがないように留意します。

観点ごとの評価と評価する際の留意点等 観点 知識の評価 ・A表現の「歌唱」イ(ア)、「器楽」イ(ア)及びB鑑賞イ(ア)では、曲想と音楽の構造や背景な どとの関わり及び音楽の多様性について理解している状況を評価します。* 「など」には歌唱 における「歌詞の内容」等を含む。 「曲想…その音楽固有の雰囲気や表情、味わいなどのこと 音楽の構造…音楽を形づくっている要素そのものや要素同士の関わり方及び音楽全体 知識• がどのように成り立っているかなど、音や要素の表れ方や関係性、音楽の 技能 構成や展開の有り様などのこと ・A表現「歌唱」イ(イ)、「器楽」イ(イ)及び「創作」イ(ア)(イ)も知識の指導事項となるため、 理解している状況を評価します。 B鑑賞のイ(イ)(ウ)についても知識の指導事項となるため、理解している状況を評価しま 評価方法

ワークシートの記述や発言の内容 など

具体的な記述例、発言例

- ・「この音楽から生き生きとした感じが伝わってくるのは、主旋律にシンコペーションのリズムが繰り返し使われているから」
- ・「力強く堂々とした感じは、金管楽器の重厚な音色による ff での演奏から生まれている」
- ・「四分音符や二分音符が多く用いられたリズムで、順次進行のなだらかな旋律が繰り返されていることによって、優しく穏やかな感じが生み出されていて、自然の豊かさを表している歌詞の内容が伝わりやすくなっている」

評価する際の留意点

- ・〔共通事項〕と関わらせた指導を通して、生徒が曲想を感じ取り、感じ取った理由を、音楽の構造などの視点から捉えている状況を評価します。
- ・楽譜に書き込まれた言葉や記号などから、曲の雰囲気や表情、味わいなどが、どのような 音楽の構造や歌詞の内容によって生み出されているのかを捉えている状況を評価するこ とも考えられます。
- ・「知識」の評価は、単に用語や記号などの名称や意味を知っているかどうかを評価するのではなく、音楽活動を通してそれらの働きを、実感を伴って理解できるように指導するなどして、曲想と音楽の構造との関わりなどを理解している状況を評価するようにします。
- ・「音楽の構造」については、「思考・判断・表現」の評価規準の中で選択した音楽を形づくっている要素との関わりについて十分考慮して指導と評価を行う必要があります。

技能の評価

創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付け、歌唱、器楽、創作で表 している状況を評価します。

評価方法

歌唱 - 器楽

- ・演奏の聴取(思いや意図を実際の演奏で音楽表現できているか)
- ・行動の観察 など

創作

- ・創作した作品(記録したワークシートなど)、演奏の聴取
- ・行動の観察 など

評価する技能の例

- ・創意工夫を生かした表現で歌うために必要な発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能
- ・創意工夫を生かし、全体の響きや各声部の声などを聴きながら他者と合わせて歌う技能
- ・創意工夫を生かした表現で演奏するために必要な奏法、身体の使い方などの技能
- ・創意工夫を生かし、全体の響きや各声部の音などを聴きながら他者と合わせて演奏する技能
- ・創意工夫を生かした表現で旋律や音楽をつくるために必要な、課題や条件に沿った音の選 択や組合せなどの技能 など

技能の例については、学習指導要領のA表現(1)歌唱(2)器楽(3)創作のウを参照。

評価する際の留意点

- 「技能」は、技能を身に付けて表現している状態を評価します。
- ・「B鑑賞」の題材においては設定しません。
- ・教師の一方向な指導による技能の習得状況を評価するのではなく、生徒が創意工夫する過程でもった音楽表現に対する思いや意図に応じて、その思いや意図を音楽で表現するために必要な技能を身に付けている状況を評価します。
- ・歌唱・器楽の評価は、実際に生徒の演奏を聴取して評価することが原則です。必要に応じて、学習過程での個人やペア、グループでの活動の際に、演奏の一部を取り出して聴取するなど、学習形態を工夫することが考えられます。また、発言の内容や行動の観察を組み合わせながら、実態に合った方法で評価することも考えられます。
- ・創作の技能の評価では、音楽を創作する技能を評価するものであり、創作した音楽を演奏する技能について評価するものではありません(参考資料 p.81 参照)。
- ・「A表現」の各分野(歌唱・器楽・創作)の技能の評価は、「創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能」が身に付いているかということを評価するので、単に「歌詞を覚えて歌うことができたか」「運指を間違わずに演奏できたか」といったようなことではなく、「思考力、判断力、表現力等」と関連付けて評価を行うことが大切です。

思考・判断・表現の評価

音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、<u>どのように表すかについて思いや意図をもったり、音楽を評価しながらよさや美しさを味わって聴いたりしている</u>状況を評価します。(下線部・・・表現領域、波線部・・・鑑賞領域)

評価方法

- ・ワークシートに記述した内容
- ・発言の内容や演奏の聴取 など

具体的な記述例、発言例

思考· 判断· 表現

- ・「優しい感じにするために、柔らかい声で、旋律の上がり下がりの動きに合わせて自然な 強弱変化を付けて歌いたい」という思いや意図をもっている。(表現・歌唱)
- ・「広がりが感じられるように、静かに始まり、徐々に盛り上がっていくように歌いたい」 という思いや意図をもっている。(表現・歌唱)
- ・「滑らかさが感じられるように、音と音との間が切れないように気を付けて、旋律を流れるように演奏したい」という思いや意図をもっている。(表現・器楽)
- ・「落ち着きのある穏やかな感じの旋律にするために、四分音符や二分音符を多めに使って 旋律をつくりたい」、「楽しく元気な雰囲気を感じる旋律にするために、付点音符のある リズムを使ってつくりたい」という思いや意図をもっている。(表現・創作)
- ・「この曲は、はじめと終わりに演奏される打楽器のリズムと金管楽器による旋律が力強さ と堂々とした感じを出しているのがすてきで、聴いていると自分も前向きな気持ちにな ります」という音楽的な根拠に基づいた曲や演奏のよさについての考えをもっている。 (鑑賞)

評価する際の留意点

- ・音楽を形づくっている要素の知覚・感受、また、知覚したことと感受したこととの関わり について考えている状況や、思いや意図をもつ過程や結果の状況を評価します。
- ・「A表現」では、感じ取った曲想や音楽の構造、歌詞の内容などに触れながら、どのよう に表現したいかについて、思いや意図を書いたり発言したりしているかを評価します。
- ・「B鑑賞」では、曲や演奏に対する評価とその根拠について考え、音楽のよさや美しさを 味わって聴くことができているかを評価します。
- ・生徒の「思いや意図」を的確に見取ることができない場合は、意図を尋ねるなどして、生 徒が思いや意図をもったり、膨らませたり、明確にしたりすることができるよう、教師が働 きかけを行った上で、見取りを行うようにします。

主体的に学習に取り組む態度の評価

音や音楽、音楽文化に親しむことができるよう、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的 に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている状況を評価します。

主体的に学習に取り組む態度において「満足できる状況」(A・B)の具体例

- ・学習のめあてを把握し、見通しをもって学習に取り組んでいる。
- ・技能を習得したり、思考力等を身に付けたりする学習に粘り強く取り組んでいる。
- ・音楽表現を創意工夫するなどの音楽活動に前向きに取り組んでいる。
- ・意欲的に表現活動に取り組んだり、集中して鑑賞活動に取り組んだりしている。
- ・グループやペアでの活動で積極的に他者と関わりながら取り組もうとしている。これらを行動の観察や授業中の発言、ワークシートの記述などから見取ります。

評価する際の留意点

主体的に 学習に 取り組む 態度

- ・ある場面に限定して評価を実施するのではなく、題材を通して行います。適宜、授業中に 指導に生かす評価を行い、生徒の学習改善や教師の指導改善に生かしていくことが大切で す。また、題材の最後では、これまでの学習状況を踏まえ、記録に残す評価を行います。
- ・主に「粘り強い取組を行おうとする側面」と粘り強い取組を行う中で「自らの学習を調整 しようとする側面」について評価します。各時間の学習活動に粘り強く取り組んでいるか、 自らの学習を調整しようとしているかを継続的に見取るようにします。
- ・主に観察によって「努力を要する」状況(C)と判断されそうな生徒の学習状況を継続的に把握し、学習の改善に向けて丁寧に生徒に働きかけることが必要です。その際、「粘り強い取組を行おうとする側面」と「自ら学習を調整しようとする側面」の両方を見取り、どちらに課題があるかを把握し、指導の改善に生かすようにします。例えば、「粘り強い取組を行おうとする側面」に課題が見られた場合には、活動に取り組むように促したり、授業のねらいを確認し自分なりに考えさせたり、友達の表現の工夫のよさに気付かせ様々な工夫を試させたりするなど生徒の学習改善が図られるようにします。また、「自らの学習を調整しようとする側面」に課題が見られた場合には、適宜、「十分満足できる」状況(A)と判断される生徒の学習状況を他の生徒へのモデルとして紹介するなどして、自らの学習を調整しようとしていけるようにすることが考えられます。指導に際して、学習の調整に向けた取組のプロセスには、生徒一人一人の特性があることから、特定の型に沿っ

た学習の進め方を一律に指導することのないよう配慮することが必要です。

- ・生徒の学習状況を的確に把握するために、「知識・技能」や「思考・判断・表現」の観点に おける達成状況を踏まえながら、発言の内容に見られる学習内容への興味、友達の発言に 対する反応、歌っているときなどの表情や体の動きの観察、歌声の聴取、グループにおい て表現の工夫に取り組んでいるときの様子や、リコーダーを演奏しているときの行動の観 察などを行います。また、「B鑑賞」では、集中して曲を聴こうとしているか、どのような 音楽なのかについて興味をもっているか、感じたことをワークシートに書こうとしている かなどについて観察などを行います。
- ・授業中の観察だけでなく、発言の内容や授業の振り返り(ワークシート)の記述などを補 完的に扱うなどして、総合的に判断し、無理なく生徒全員の学習状況を記録に残すように することが大切です。

〈教師用チェックリスト〉の活用と留意点

|〈教師用チェックリスト〉の活用|

授業中の観察の記録については、学級名簿や座席表、また次のような〈教師用チェック リスト〉を利用して行うことも考えられます。

①〈教師用チェックリスト〉の例

		取組状況			取組状況		
		粘り強く取り組ん	自己調整しようと		粘り強く取り組ん	自己調整しようと	
		でいる様子	している様子		でいる様子	している様子	
	生徒 1	0	0	生徒 14		Δ	
	生徒2		他者の助言を聞き 入れようとしない	生徒 15	ややあきらめがち		
	生徒3	奏法を身に付ける ことに消極的	Δ	生徒 16	0	Δ	

②記入の仕方の例

粘り強く取り組んでいる様子

十分満足できる・・・・・・「〇」(例 学習内容に<u>高い</u>関心をもち、<u>積極的に</u>他者と関わりながら、粘り 強く取り組んでいる)

おおむね満足できる・・・・・・空欄のまま (例 内容に関心をもち、他者と関わりながら、粘り強く 取り組んでいる)

努力を要する・・・・・・取組状況の欄に、具体的な状況を端的に記し、適切な指導や助言を行います。

自己調整しようとしている様子

十分満足できる・・・・・「○」(例 自己の演奏だけでなく他者の演奏についても助言したり、グループの演奏をより高めようとしたりして、グループ全体の学習を調整しようとしている)

おおむね満足できる・・・・・・空欄のまま (例 他者からの助言を参考にしたり、グループでの話し合いを参考に自己の演奏を振り返ったりして、自らの学習を調整しようとしている)

努力を要する・・・・・・取組状況の欄に、具体的な状況を端的に記し、適切な指導や助言 を行います。

観察だけでは判断が不十分・・・・・「△」

「努力を要する」状況について、改善が見られた場合は、取り消し線で消します。

③活用の例

(例) 第2時

全ての生徒について、 粘り強く取り組んでい るかどうかを観察し、

〈教師用チェックリスト〉の「粘り強く取り組んでいる様子」の欄に記録する。

(例) 第3時から第4時

第2時で「おおむね満足できる」状況以上と判断した生徒

第3時から第4時にかけて、自ら学習を調整しようとしているかを可能な範囲で観察し、〈教師用チェックリスト〉の「自己調整しようとしている様子」の欄に記録する。

第2時で「努力を要する」状況と判断した生徒

適切な指導や助言を行い、第3時から第4時で改めて粘り強く取り組んでいるかどうかを観察し、記録するとともに、自ら学習を調整しようしているかについても可能な範囲で観察し、記録する。

〈教師用チェックリスト〉を活用した評価の留意点

全ての生徒の状況を観察のみで把握することは難しいため、ワークシート【毎時間の振り返り】の記入状況などを補完的に取り扱いながら、評価を行うことが大切です。

9 中学校音楽科における評価の事例

キーワード…指導と評価の計画から評価の総括まで 内容のまとまり…(第2学年及び第3学年) 「A表現」(1)歌唱 及び (共通事項)(1)

1 題材名

混声四部合唱の響きを味わおう (第3学年)「A表現 (歌唱)」 教材名 「大地讃頌」(大木 惇夫 作詞/佐藤 真 作曲)

2 題材の目標

- (1) 「大地讃頌」の曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて理解するとともに、創意工夫を生かし、全体の響きや各声部の声などを聴きながら他者と合わせて歌う技能を身に付ける。
- (2) 「大地讃頌」の旋律、強弱、テクスチュアを知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、曲にふさわしい歌唱表現を創意工夫する。
- (3) 「大地讃頌」の全体の響きや各声部などを聴きながら他者と合わせて歌う活動に関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組むとともに、混声四部合唱に親しむ。
 - *「題材の目標」は、次のように一文で示すことも考えられます。

「大地讃頌」の曲想と音楽の構造や歌詞の内容及び曲の背景との関わりについて理解するととも に、曲にふさわしい歌唱表現を創意工夫して歌い、混声四部合唱に親しむ。

3 本題材で扱う学習指導要領の内容

第2学年及び第3学年 A表現(1)歌唱

- ア 歌唱表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、曲にふさわしい歌唱表現を創 意工夫すること。
- イ 次の(ア)及び(イ)について理解すること。
 - (ア) 曲想と音楽の構造や歌詞の内容及び曲の背景との関わり (本題材の学習において、「曲想と曲の背景との関わり」については扱いません。)
- ウ 次の(ア)及び(イ)の技能を身に付けること。
- (イ) 創意工夫を生かし、全体の響きや各声部の声などを聴きながら他者と合わせて歌う技能 [共通事項](1)

(本題材の学習において、生徒の思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素:「旋律」、「強弱」、「テクスチュア」)

4 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
知 「大地讃頌」の曲想と音楽	思 「大地讃頌」の旋律、強弱、	態 「大地讃頌」の混声四部合唱
の構造や歌詞の内容との関わ	テクスチュアを知覚し、それ	の全体の響きや各声部などを
りについて理解している。	らの働きが生み出す特質や雰	聴きながら他者と合わせて歌

技 創意工夫を生かし、全体の響きや各声部の声などを聴きながら他者と合わせて歌う技能を身に付け、歌唱で表している。

囲気を感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、曲にふさわしい歌唱表現としてどのように表すかについて思いや意図をもっている。

う活動に関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組もうとしている。

5 題材の指導と評価の計画(5時間)

全員の学習状況を記録に残す場面…知・技、思、態 指導に生かす評価…随時

知・技 思 ◆ねらい ○学習内容 • 学習活動 時 〈 〉内は評価方法 1 ◆「大地讃頌」の旋律、強弱、テクスチュアを知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受し ながら、「大地讃頌」を聴取し、歌詞の内容について関心をもつ。 ○「大地讃頌」を聴いたり、主旋律を歌ったりして、音楽を形づくってい る要素を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受する。 「大地讃頌」の主旋律を受けもっているパートを確認しながら、全員で 主旋律を歌う。 ・「大地讃頌」のCDを聴き、音楽の特徴(旋律、強弱、テクスチュアに着 目して知覚したことと感受したこと)をワークシート(以下、WS)に 書く。 ・「大地讃頌」のCDを聴き、知覚したことと感受したことを学級全体で 共有し、音楽の構造や混声四部合唱であることなどを確認する。 ○歌詞の内容に関心をもって主旋律を歌う。 ・歌詞の内容を知り、WSに書く。 ・歌詞の内容を考えながら、主旋律を歌う。 ○本時の振り返りをする。 【毎時間の振り返り】をWSに書く。 2 ◆「大地讃頌」の旋律、強弱、テクスチュアを知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受す るとともに、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、自分のパートを正しい音程とリ ズムで歌う。 ○「大地讃頌」について知覚したことと感受したこととの関わりについて 考えるとともに、音楽の特徴と歌詞の内容とを関わらせて自分のパート を歌う。 ・パートに分かれて自分が担当するパートを正しい音程とリズムで歌う。 ・1時目にWSに書いた音楽の特徴(「音楽を形づくっている要素」と「感 じ取ったこと」)を適宜、修正する。 ・1 時目にWSに書いた音楽の特徴(「音楽を形づくっている要素」と「感

			_		
	じ取ったこと」)、「歌詞の内容」を線で結び、関わりについて考える。 (個人・学級全体)				
	・音楽の特徴と歌詞の内容との関わりを意識ながら、自分のパートを正し				
	い音程とリズムで歌う。				
	○本時の振り返りをする。				
	・【毎時間の振り返り】をWSに書く。				_
3	◆「大地讃頌」の旋律、強弱、テクスチュアなどの特徴を捉え、曲想と音 わりについて理解するとともに、混声四部合唱で合わせて歌う。	楽の構造や	歌詞の内容	との関	関
	○「大地讃頌」の曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて理解し、混声四部合唱をする。・「大地讃頌」の自分のパートを正しい音程とリズムで歌う。・「大地讃頌」を混声四部合唱で合わせて歌う。・「大地讃頌」の曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて、グ	知〈観察〉〈ワークシート〉			
	ループ及び学級全体で意見交換し、WSに書き加える。	シ			
	○本時の振り返りをする。				
	・【毎時間の振り返り】をWSに書く。	<u> </u>			
	◆「大地讃頌」の混声四部合唱における全体の響きと各声部の声などとの うに歌うかについて思いや意図をもつ。	/ 	V. (5.2. \	_ (V)	
	│○「大地讃頌」の混声四部合唱における全体の響きと各声部の声などとの				
	関わりについて考える。				
	・混声四部合唱において全体の響きと各声部の声などの関わりについて 考え、WSに書く。				
	・個人でWSに記述したことを基に、意見交換をし、アイデアを更に広げて、自分のWSに書き加える。(パート・学級全体)				
	 ○今まで学習した内容を生かしながら、どのように自分のパートを歌うか		思		
	について思いや意図をもち、曲にふさわしい音楽表現を追求する。				
	・曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりや混声四部合唱における全		観察〉		
	体の響きと各声部の声などとの関わりを生かしながら、どのように歌う				
	かについて思いや意図をWSに書く。その際、今まで書いたWSの内容		(ワークシート)		
	を参考にする。		クシ		
	・パートや学級全体での意見交換を踏まえて、学級全体で音楽表現の工夫				
	を共有し、実際に歌って試す。		,		
	・混声四部合唱での歌唱活動を通して、声部の役割と全体の響きとの関わ				
	りを踏まえて、自分が音楽表現の工夫をできたと思うことや、次時に向				
	けて、更に工夫しようと思うことをWSに書く。(個人)				
	して、				
	・【毎時間の振り返り】をWSに書く。				
1	MANUMATICAL AND COMPANIES NO				

5

- ◆本題材の学習を振り返りながら学習活動に取り組み、創意工夫を生かして「大地讃頌」を歌う。
- ○「大地讃頌」をどのように歌うかについての思いや意図を再確認する。
- ・これまでの学習を振り返って、取り組んできた音楽表現の工夫をパート で確認しながら歌う。
- ○「大地讃頌」の歌詞の内容や曲想を味わうとともに、混声四部合唱における全体の響きと各声部の声との関わりを理解して、創意工夫を生かして混声四部合唱で合わせて歌う。
- ・パートでどのように歌うか、思いや意図について紹介し合う。
- ・混声四部合唱で合わせて歌い、録音する。
- ・録音した合唱を聴き、そのよさなどを学級で共有する。
- ○題材の振り返りをする。
- ・【毎時間の振り返り】をWSに書く。
- ・振り返ったことについて学級で意見交換し、本題材を学習したことの価値を共有する。
- ・本題材の学習を振り返りながら、「大地讃頌」を混声四部合唱で歌う。

6 観点別学習状況の評価の進め方

(1) 指導に生かす評価と学習状況を記録に残す場面



教師は、学習状況を記録に残す場面だけで評価を行うのではなく、授業の中で常に生徒の学習状況を把握し、**指導に生かす評価**を行っていかなければなりません。教師は、授業の中で「努力を要する状況」(C)と判断されそうな生徒に対し、適切な手立てを講じ、生徒全員がその授業の中で「おおむね満足できる」状況(B)となるよう、指導に生かしていくことが大切です。

本事例で評価規準を設定して行っている評価は、評価規準に基づいて生徒の学習状況をA、B、Cで判断し、一定期間(学期、年間等)の総括に集約する評価です。一方、教師は授業の中で常に生徒の学習状況を把握し、それを基に生徒の学習を充実させていく指導に生かす評価を行います。指導計画や授業の展開において、このような指導に生かす評価と関わらせながら、評価規準に基づき、評価の結果を記録に残す場面を適切に位置付けていくことが重要です。例えば、「主体的に学習に取り組む態度」は、第1時から第5時までに位置付け、各時間の学習活動に粘り強く取り組んでいるか、また、自らの学習を調整しようとしているかを継続的に見取るようにし、教師の指導改善につなげるための評価(指導に生かす評価)として位置付けています。この際、「知識・技能」や「思考・判断・表現」の観点の状況を踏まえた上で評価を行うことが大切になります。学習状況を記録に残す場面では、本事例の評価規準を基にしながら、「おおむね満足できる」状況(B)、「十分満足できる」状況(A)を判断していくことになります。その際、必要に応じて、予想される生徒の姿を幅広く想定しておくことが効果的です。また、「努力を要する」状況(C)と判断されそうな学習状況にある生徒に対しては、改善のための具体的な働きかけを講じて、「おおむね満足できる」状況(B)となるように支援することも不可欠です。

(2) 題材全体の学習指導における記録に残す評価の位置付けと回数

	題材全体の学習指導	評価の位置付け			
		評価の観点と主な評価の対象			
時	主な学習内容	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に 取り組む態度	評価の 回数
1	・「大地讃頌」の曲想や歌詞の内容に関				0
1	心をもつ。				U
	・音楽を形づくっている要素を知覚・				
2	感受し、「大地讃頌」の自分のパート				О
	を歌う。				
	・曲想と音楽の構造や歌詞の内容との	知 曲想と音楽			
3	関わりについて理解し、「大地讃頌」	の構造等との			1
	を合唱する。	関わりの理解	•		
	・前時までの学習を生かして、「大地讃		思 音楽を形づく っている要素の		
4	頌」の音楽表現を創意工夫する。		知覚・感受に基		1
			づく歌唱表現の 創意工夫	*	
	・曲にふさわしい表現で主体的・協働	技 創意工夫を		態 学習に対す	
5	的に合唱する。	生かして歌う		る主体的・協	2
	・題材全体の学習の振り返りをする。	技能		働的な取組	

「知識・技能」については、知識の習得に関する評価規準(知)を第3時に位置付け、曲想と楽の構造等との関わりについての理解の状況を評価すること、技能の習得に関する評価規準(技)を第5時に位置付け、創意工夫を生かした表現で歌うために必要な技能の習得の状況を評価することとしました。

「思考・判断・表現」の評価規準(思)を第4時に位置付け、第2時から第4時までの、音楽を 形づくっている要素の知覚・感受、また知覚したことと感受したこととの関わりについて考えてい る状況や、思いや意図をもつ過程や結果の状況を評価することとしました。

「主体的に学習に取り組む態度」の評価規準(態)を第5時に位置付け、第1時から第5時までの、本題材の学習活動への取組の状況について総括的に評価することとしました。「主体的に学習に取り組む態度」については、本題材の学習内容等に関心がもてるようにしながら、各時間の学習活動に粘り強く取り組んでいるか、また、本題材の目標の実現に向けて自己の学習を調整しようとしながら取り組んでいるか等について継続的な把握に努め、適切な場面で総括的に評価します。

実際の学習活動にあっては、これらの三つの観点に係る資質・能力は深く関わり合っています。例えば、曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについての理解は、第1時、第2時の学習が基礎となっています。また、そこでは、〔共通事項〕アに相当する思考力、判断力、表現力等がその支えとなっています。生徒の状況を常に把握しながら授業を進め、様々な状況に応じた工夫のある指導を行い、生徒一人一人にとって学習が充実するように努めることが大切です。

このように、生徒の状況を常に把握し、工夫のある指導を十分に行う中で、評価規準に基づいて生徒一人一人の状況を $A \cdot B \cdot C$ で判断し、その結果を記録に残します。この評価の結果を記録に残す場面を精選し、上記のように 1 単位時間当たり $0 \sim 2$ 回としました(p. 10 参照)。

(3) 指導と評価の計画

本	事例では、それぞれの観	見点について、以下の方法で授業と評価を進めました。
観点	評価規準	【評価する場面】
	6平1四次2年	評価方法(◇)と見取りのポイント(・)
	知 「大地讃頌」の曲想と	【第3時】
	音楽の構造や歌詞の内	◇ワークシートの記述、発言の内容、行動の観察
	容との関わりについて	・ワークシートの記述から、曲想と音楽の構造等との関わりについて
	理解している。	解しているかを見取ります。
		・補助的に発言の内容や行動の観察を判断の参考として総合的に判
		します。
		「おおむね満足できる」状況(B)と判断する例
		 ・「大地讃頌」を聴いたり、歌ったりして、曲想と音楽の構造や曲想
		■ 歌詞の内容との関わりについて、分かったことや気付いたことを、
		 楽を形づくっている要素 (旋律、強弱、テクスチュア) に触れながら
		おおむね妥当な内容を書いている。
		ワークシートの記述例
		・ \underline{p} \underline{p} のところは、静かで厳かな感じがしました。また、 \underline{f} \underline{f}
		<u> のところ</u> は、 <u>壮大で力強い感じ</u> がしました。
		・この曲の最後の部分は、 <u>旋律に八分音符が多く使われていて</u> 、
知識		人が一歩一歩大地を踏みしめている感じがしました。
識 ●		音楽を形づくっている要素(<u>下線部</u>)に着目し、曲想(<u>波線部</u>)
技能		を感じ取っており、曲想と音楽の構造との関わりについて理解
月已		しているため、(B)と判断しました。
		 ・「大地讃頌」を聴いたり、歌ったりして、曲想と音楽の構成や曲想
		│ │ 歌詞の内容との関わりについて、分かったことや気付いたことを、
		 楽を形づくっている要素 (旋律、強弱、テクスチュア) に触れながら
		 具体例を挙げて詳細に書いている。
		ワークシートの記述例
		全部のパートで同じリズムの旋律を歌うところが多くあっ
		て、広い大地をみんなで歩いている感じがしました。15 小節
		目~18 小節の部分は、パートごとにずれて旋律が重なり合っ
		ていき、波が重なり合っていくような感じがしました。
		下線部において、旋律だけでなくテクスチュアにも着目するこ
		とができており、曲想と曲の構造との関わりについて質的な高

まりを読み取ることができるため、(A)と判断しました。

「努力を要する」状況(C)と判断されそうな生徒への働きかけの例

- ・聴き取り感じ取ったことについて丁寧なやり取りを行います。
- ・学級全体で共有したことを基に、楽譜を用い強弱や4つのパートがあることやどのように音が重なっていくかを生徒と一緒に確認します。 その後、曲を聴いたり歌ったりする活動を通して、どのような感じがするか問いかけます。

技 創意工夫を生かし、

全体の響きや各声部の 声などを聴きながら他 者と合わせて歌う技能 を身に付け、歌唱で表 している。

【第5時】

- 全体の響きや各声部の ◇演奏の聴取、発言の内容、ワークシートの記述
- **声などを聴きながら他 |・演奏の聴取を中心に行います。**
- 者と合わせて歌う技能 ・補助的に発言の内容や行動の観察を判断の参考として総合的に判断 を身に付け、歌唱で表 します。

「おおむね満足できる」状況(B)と判断する例

・パートや全体での学習過程において、思いや意図に合った歌唱表現を するために技能を身に付けている。

(B) と判断した具体

「思いや意図」について、第4時の

図のワークシートに記述していることを歌唱表現に結び付け、歌唱表現で表している。

例えば、「自分のパートが主旋律のところは、他のパートより

少し大きめの声で歌う」という思いや意図があり、その思い

や意図に合った歌唱で表すための技能を身に付けている。

「十分満足できる」状況(A)と判断する例

・パートや全体での学習過程において、思いや意図に合った歌唱表現を するために十分な技能を身に付けている。

(A)と判断した具体

「思いや意図」について、第4時の国のワークシートに記述していることを歌唱表現に結び付けるに十分な技能を身に付けており、歌唱表現で表している。例えば、「主旋律を歌うソプラノパートの声を聴きながら、その声量に合わせてバスパートを歌う自分の声量を大きくすれば、響きに安定感が出るのではないか」や「パートが重なり合っていくところは、全体の響きのバランスを考えながら歌いたい」という思いや意図があり、その思いや意図に合った歌唱で表すための質の高い技能を身に付けている。

「努力を要する」状況(C)と判断されそうな生徒への働きかけの例

- ・どのように歌いたいのかという本人の思いを聞き取り、そのために必要な技能を確かめ、その技能を習得するための支援を行います。
- ・技能が身に付いている友達の歌い方を参考にするように助言します。

思 「大地讃頌」の旋律、

強弱、テクスチュアを 知覚し、それらの働き が生み出す特質や雰囲 気を感受しながら、知 覚したことと感受した こととの関わりについ て考え、曲によってい歌唱表現としての ように表すかについて 思いや意図をもってい る。

【第4時】

◇ワークシートの記述の内容、発言の内容、行動の観察

- ・「大地讃頌」の音楽を形づくっている要素の働きに着目し、知覚したことと感 受したこととの関わりについて考えているか、曲にふさわしい表現を工夫し、 思いや意図をもっているかをワークシートの記述の内容から見取ります。
- ・補助的に発言の内容や行動の観察を判断の参考として総合的に判断します。

「おおむね満足できる」状況(B)と判断する例

・ワークシートに、旋律、強弱、テクスチュアなどについて知覚・感受したことに基づいて、どのように歌いたいかという思いや意図を記述できている。

ワークシートの記述例

- ・全員で同じリズムの旋律を歌うところは、大地のあたたかさを 表現するために、1つ1つの言葉の大切にして歌いたい。
- ・曲の壮大さを表現するために、PPのところはささやくようにf f のところは力強い声で歌うようにしたい。

音楽を形づくっている要素と曲の特質や雰囲気との関わりについて記述しており、それを基にどのように歌唱表現したいか思いや意図をもっていることが読み取れるため、(B)と判断しました。

「十分満足できる」状況(A)と判断した例

・ワークシートに、旋律、強弱、テクスチュアなどについて知覚・感受したことに基づいて、どのように歌いたいかという思いや意図を具体的、詳細に記述できている。

ワークシートの記述例

35 小節から 43 小節は、男女で歌詞も違っていて、それぞれが独立した旋律を歌っている。女声パートの旋律は大きな流れを感じる旋律で音の高さの変化が少ない。男声パートは、音の高さの変動が激しく、堂々とした感じがする旋律だと思う。私は、女声パートの滑らかな大きな流れと対比するように、男声パートを1つ1つの言葉をはっきり、そして堂々とした声で歌いたいと思う。

音楽を形づくっている要素に着目し、女声パートと男声パートの旋律の違いを明確にし、どのように歌えばこの曲にふさわしい歌唱表現になるか、具体的かつ詳細に記述しており、質的な高まりを読み取ることができるため、(A) と判断しました。

「努力を要する」状況 (C) と判断されそうな生徒への働きかけの例

・知覚したことや感受したことについて丁寧なやり取りを行い、どのように表現を工夫したいのか、またどのように歌いたいのかについて思いや意図を尋ねます。

態 「大地讃頌」の混声 【第1時から第5時】

う活動に関心をもち、 もうとしている。

四部合唱の全体の響き ◇行動の観察、発言の内容、ワークシートの記述

- や各声部などを聴きな┃・進んで歌唱表現したり表現を工夫したりしようとしているか。
- がら他者と合わせて歌 |・集中して曲を聴いたりよさについて考えたりしようとしているか。
 - ・他者と関わりながら、学習活動に取り組もうとしているか。
- 音楽活動を楽しみなが |・自分の考えなどをワークシートに書こうとしているか。
- ら主体的・協働的に歌 →・課題を把握し、見通しをもって学習に取り組もうとしているか。
- 唱の学習活動に取り組 ▼・自らの学習を振り返ったり見直したりしようとしているか。
 - ・学習状況を記録に残す場面として、題材の最後(第5時)に設定し、 学習の振り返りの記述内容も加味して見取ります。その際、第1時か ら第4時までの生徒の学習状況も踏まえて評価するようにします。

「おおむね満足できる」状況(B)と判断する例

- ①粘り強い取組を行おうとする側面
- ・行動の観察や発言の内容より、第1時から第5時を通して、学習内容 に関心もち、他者と関わりながら、学習に粘り強く取り組んでいる。
- ②自らの学習を調整しようとする側面
- ・第1時から第5時を通して、ワークシート【毎時間の振り返り】に自 己評価として、よかった点やできなかった点を書いており、自らの学 習を調整しようとしている。

「十分満足できる」状況(A)と判断した例

- ①粘り強い取組を行おうとする側面
- ・行動の観察や発言の内容より、第1時から第5時を通して、学習内容 に高い関心もち、積極的に他者と関わりながら、学習に粘り強く取り 組んでいる。
- ②自らの学習を調整しようとする側面
- ・第1時から第5時を通して、ワークシート【毎時間の振り返り】に自 己評価を書いており、よかった点やできなかった点だけでなく、改善 点や次の学習への見通しなどを適切に書いており、自らの学習を調整 しようとしている。

下線部は、質的に高まった状況であると判断しました。

「努力を要する」状況(C)と判断されそうな生徒への働きかけの例

- ・必要に応じて、粘り強く取り組むように励ましたり、授業のめあての 確認をしたりして、学習を調整していくための働きかけ等を行いま す。
- ・学習活動において、意欲が減退している生徒に対しては、その生徒と 対話をしたり、実際の歌唱を聴いたりして、うまくできていることと 難しさを感じていることを把握し、うまくできていることについては 積極的に認め、難しさを感じていることについては生徒が無理なく取 り組むことができるように助言します。

7 観点別学習状況の評価の総括

(1) 題材における観点ごとの総括例

知識・技能

表現領域においては、本事例のように、「知識」の習得に関する評価規準(知)と「技能」の習得に関する評価規準(技)を設定しそれぞれに評価した上で、「知識・技能」の評価として総括します。 総括の仕方については、知と技を同等に扱った場合、主に次のア、イ、ウなどが考えられます。

	知	技	総括例	留意点など			
	A	A	Α	・知と技が、両方とも同じ評価である場合、総括の評価も同じに			
ア	В	В	В	します。			
	С	С	С				
7	A	С	В	・「B」と総括します。			
1	С	A	В				
rþ	A	В	A or B	・上記ア、イ以外の場合は、総括の仕方についてあらかじめ各学校			
	В	С	BorC	で決めておく必要があります。			

表現領域では、学習指導要領の指導事項において知識と技能とを分けて示しているため、それぞれの評価結果を総括して「知識・技能」の評価をすることが基本となります。この場合、題材単位では、その学習内容等によって知識と技能とに軽重を付けることも考えられますが、その際は、一方に著しく偏ることがないようにすること、また年間を通じて知識と技能がバランスよく育成されることなどに留意する必要があります。また、鑑賞領域のみで構成した題材では、学習指導要領に「技能」に関する指導事項が示されていないため、《知識・技能》の観点の評価は、「知識」のみの評価で総括することとなります。

□思考・判断・表現

本事例では、「思考・判断・表現」について、思のように、1つの評価規準を設定しているため、その評価が総括の評価結果となります。題材によっては、思①(〔共通事項〕アに関すること)、思②(〔共通事項〕アを支えとして、音楽表現を創意工夫したり味わって聴いたりすること)などのように、2つの評価規準を設定することも考えられます。そのような題材で評価結果を総括する際、2つの評価結果が異なる場合は、主に次のア、イ、ウのような総括の仕方が考えられます。

	思①	思②	総括例	留意点など		
	A	В	В	・思①と思②の評価結果が異なる場合は、思②の評価結果を総括		
ア	В	Α	Α	の評価結果とします。		
	В	С	С			
	С	В	В			
イ	A	С	В	・「B」と総括します。		
ウ	С	А	А	・思②が思①を上回った場合は、学習の深まりや向上などを考慮して、思②の評価結果を総括の評価結果とします。		

主体的に学習に取り組む態度

本事例では、「主体的に学習に取り組む態度」について、態のように、1つの評価規準を設定しているため、その評価が総括の評価結果となります。

(2) 学期や年間を見通した観点ごとの総括例

ここでは、本事例を含む複数の題材にわたる総括例を次に示します。

	ı	T			
〈領域・分野〉	題材の概要概要	学習指導要領の内容	評価の観点		
題材名(時数)	(主な教材)		知・技	思	態
〈表現・器楽〉	曲想と音楽の構造と	・「A表現」(2)			
楽器の音色を生かして	の関わりを理解して、	ア、イ(ア)、ウ(イ)			
表現しよう (3時間)	表現の工夫をしなが	・〔共通事項〕(本題材の学			
	ら合わせて演奏する。	習において、生徒の思考・判	0	D	D
	(リコーダー合奏曲)	断のよりどころとなる主な	С	В	В
		音楽を形づくっている要			
		素:「音色」、「旋律」、「テク			
		スチュア」)			
〈鑑賞〉	曲想と音楽の構造と	・「B鑑賞」(1)			
管弦楽の響きや楽曲の	の関わりを理解して	ア(ア)、イ(ア)			
構造を理解し、曲想を味	聴き、管弦楽のよさや	・〔共通事項〕(本題材の学			
わう (3時間)	美しさを味わう。	習において、生徒の思考・判	Δ		D
	(管弦楽曲)	断のよりどころとなる主な	Α	A	В
		音楽を形づくっている要			
		素:「音色」、「テクスチュ			
		ア」、「形式」)			
本事例				В	Α
〈表現・創作、鑑賞〉	筝の音色の特徴及び	・「A表現」(3)			
筝に親しもう~構成を	反復、変化、対照など	ア、イ(イ)、ウ			
生かした創作と箏曲の	の構成上の特徴、音楽	「B鑑賞」(1)			
鑑賞 (5時間)	の特徴とその背景と	ア(ア)、イ(イ)			
	なる文化などとの関	・〔共通事項〕(本題材の学	D		
	わりを理解して、構成	習において、生徒の思考・判	В	A	A
	を生かして音楽をつ	断のよりどころとなる主な			
	くるとともに、箏曲を	音楽を形づくっている要			
	味わって聴く。(筝曲)	素:「音色」、「速度」、「旋律」、			
		「構成」)			
	В	Α	Α		
L		l	l		

上の例では、観点ごとの各題材の評価結果について、「A」の数と「B」の数が同数であった場合は、学期や年間を通した総括を「A」とするという考え方をとっています。

この他にも、例えば、題材の目標、指導内容、配当時数などを勘案し、特に重視することが妥当と考えられる題材の評価結果に重み付けを行うなど、総括には様々な方法があります。

8 観点別学習状況の評価の評定への総括

評定とは、各教科の観点別学習状況の評価を総括した数値を表すものです。各観点の評価結果をA、B、Cの組み合わせ、又は、A、B、Cを数値で表したものに基づいて総括し、中学校では、5段階で表します。A、B、Cの組み合わせから評定に総括する場合、各観点とも同じ評価がそろう場合、例えば「BBB」であれば3を基本としつつ、「AAA」であれば5又は4、「CCC」であれば2又は1とするのが適当であると考えられます。それ以外の場合は、各観点のA、B、Cの数の組み合わせから適切に評定することができるよう、あらかじめ各学校において決めておく必要があります。なお、観点別学習状況の評価はA、B、Cのように表されますが、そこで表された学習の実現状況には幅があるため、機械的に評定を算出することは適当でない場合も予想されます。評定の適切な決定方法等については、各学校において定めるとされています。

10 学習評価の進め方Q&A

- Q 1 もう少し、詳しく学習評価について教えてください。また、創作や鑑賞の学習評価の仕方についても知りたいです。
 - A 学習評価と指導(授業)は一体的に進めていかなくてはなりません。そのため、「中学校学習指導要領解説 音楽編」に書かれている内容を十分に理解することが必要です。生徒にどのような力を身に付けさせるのか、またそのためにはどのような授業を行うかを明確にしなければなりません。

詳しい学習評価の在り方については、国立教育政策研究所の「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料 中学校音楽」を参考にすることができます。この参考資料の中には、具体的な学習評価の事例が4つ示されており、学習評価の一連の流れや「知識・技能」の評価、「思考・判断・表現」の評価、「主体的に学習に取り組む態度」の評価が示されています。また、器楽や創作、鑑賞の分野の評価についても参考にすることができます。

- Q2 「主体的に学習に取り組む態度」の評価方法は、どのような方法が考えられますか。
 - A 「主体的に学習に取り組む態度」に関することは p. 13 に示している通りです。「粘り強い取組を行おうとしている側面」「自己の学習を調整しようとする側面」という 2 つの側面を見取るためには、教師の指導のねらいが明確な授業を行わなければなりません。そのためには、教師用チェックリストの活用をおすすめします。その際、指導のねらいに照らした具体的な生徒の姿をイメージしておくことが大切です。

教師用チェックリストの他には、次の評価方法があります。

- 記述・・・ノートやワークシート、楽譜への書き込みなど
- ・発言・・・授業中の発言、グループ活動内での発言など
 - ※教師による問い掛けやインタビューで生徒の発言を引き出した後に生徒の姿を見取ることも効果的です。
- ・観察・・・教師による行動観察、生徒による自己評価や相互評価

記述による評価方法については、書かせることを必然とせず、発言などを取り入れたり、記述する 場面を精選したりするなどし、方法を工夫してみましょう。

- Q3 「知識」の評価における「実感を伴って理解する」ということについて、もう少し詳しく教えてください。
 - A 音楽の授業ですから、音楽中心で授業が行われていくことが理想です。「技能」については、音や音楽を伴うことが当然ですが、「知識」や「思考・判断・表現」についても、音や音楽を伴った理解が必要です。例えば、『魔王』の作曲家はシューベルトで、ゲーテの詩に作曲されたものであるということは、音楽を理解する上で必要な知識ですが、教科書やインターネット等で調べれば分かる知識です。ここで大切な「知識」は、実際に『魔王』を聴いて知覚・感受しながら、音楽を形づくっている要素や構造と曲想を関わらせて理解する「知識」です。また、歌唱や器楽などの表現領域においても、同様な授業が展開されることが望ましいと思います。創意工夫して表現するためにパート学習やグループ学習が展開されることが予想されますが、課題に対して話し合うばかりでは音や音楽を伴った理解にはつながっていきません。そこで大切なのが、教師の言葉掛けです。「一度歌って試してみよう」「音楽を聴いて確認してみよう」など声を掛けると、生徒自らが音楽で確認するような授業になっていくはずです。このような活動の連続が「実感を伴って理解する」ことにつながっていきます。

参考文献

- ・文部科学省 『中学校学習指導要領解説 音楽編』 平成29年7月
- ・国立教育政策研究所 『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 中学校音楽』 令和2年3月
- ・佐賀県教育センター 『新学習指導要領における学習評価の進め方(中学校 音楽科)』 平成24年2月